



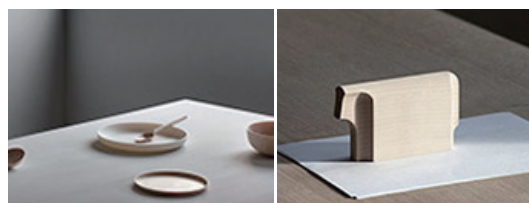
DESIGNER INTERVIEW | CARLO CLOPATH

E&Y ONLINE SHOP では、国内外の優れたデザイナーやアーティストを特集するセレクトアイテムを展開中です。このインタビューではデザイナーやアーティストに作品が生まれる過程やバックボーンをお伺いし、作品の魅力をお届けいたします。第1回目はスイスの若手インダストリアルデザイナーの Carlo Clopath です。

—「PALUTTA」、「PUSCHA」は、どのように誕生した作品でしょうか。

「PALUTTA」は、個人的なプロジェクトとしてはじまりました。スイス・グラウビュンデン州の地域に根付く料理の慣習や類型学、伝統的な製造手法をもとにした作品です。グラウビュンデン州は、建築やアート、クラフトなど様々な文化遺産が一体となった地域で、その昔農家は冬のあいだバケツやバスケット、キッチンツールなど、暮らしの道具や日用品を自らの手で生産していました。そういった道具や日用品の原型を新しい製造手法をもとに、現代に合った軽く繊細なプロダクトに更新したいと思い、生まれた作品です。「PALUTTA」は、実際に CNC の技術や、回転式のサンダーで製作をしています。「PUSCHA」は、スイスブランド DADADUM とのプロジェクトで『小さく、製造プロセスがシンプルなオブジェクト』という当初の依頼をもとに現在の形になりました。スイスの文化的背景を反映したプロダクトで、『牛のおもちゃ』ですが、それは以下の文献にあるような木製の牛にまつわるスイスの文化的な記憶に深く根付いています。

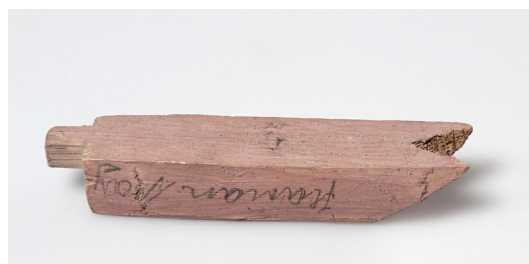
"木製の牛：暇な時間ができた男の子たちは、親にならって彼らの牧場を運営する事にした。最初の牛は、一片のハンノキ（*注1）を理想的な形に彫ることから。ポケットナイフだけで、どんな動物でも、どんな年齢にも、魂を吹き込むことができる。子牛、乳牛、そして雄牛、それぞれの姿を彫る。輪の中で一番器用な男の子が審査員として選ばれた。言い合いになれば調停役が必要になるからだ。ほかの子ども達は紙のお金をつくり、一番利口な男の子は畜牛のディーラーになった。対立を避けるため、残念ながら銀行係は自分たちの牛を飼うことはできなかったが、他には無い手で描かれた紙のお金が、20、100、1000 スイスフラン…と流通した。"
（出典：Plasch Barandun「Das Museum St. Hippolytus: Feldis」,1999 年）



（左）「PALUTTA」、（右）「PUSCHA」



スイス・グラウビュンデン州に伝わる道具

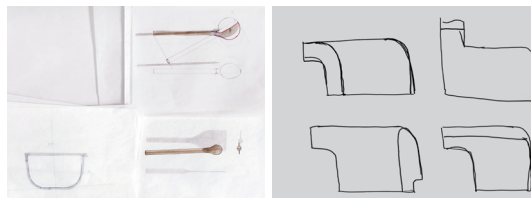


木製の牛（Raetic Museum in Chur, Switzerland）

一普段デザインをする際に、どのようなプロセスで進めますか。
また、難しいところ、面白みを感じるころはどこでしょうか。

私は物質的あるいは、地域的な要因、また思想の文脈を汲み取ったデザインに興味があります。
どのプロジェクトも、目的やその前後関係について時間をかけて要約することからはじめ、対象となる物の文献や実例を読み、書き留め、知識を得て、考えられる素材や機能、製作手法のアイデアを言葉や図で表します。そして、図面とモデリング（仮想と現実）の双方を製作します。多くの場合、書くこととモデリングを繰り返し、当初の抽象的なアイデアをより詳細で明確なプロトタイプへと進めていきます。

試作と課題の繰り返しのなかでアイデアが散らばった瞬間は、難しく感じる時もありますが、同時に面白みを感じます。通常、多くの試作と時間、話し合いが求められますが、ときに当初のアイデアやイメージをより明確にするチャンスになるからです。
最終的には、工場や生産者を行う開発段階で、より物として合理的で自然な形と機能になります。
良いプロダクトはいつも、素材、生産プロセス、構造、形と機能の相互作用が表に現れていると思います。



一あなたの作品は、スイスの伝統や慣習を取り入れたものが多いですが、それはなぜですか。

私の作品やパーソナリティは、それぞれの文化から異なる影響を受けています。私は東スイス、オーストリアとイタリアの間に位置する山岳地域、グラウビュンデン州で育ちました。そこでは歴史的、また現代的な技術や手法、建築に影響を受けました。
スイスのローザンヌにある ECAL (University of Art and Design Lausanne) を卒業後、デンマークの Cecilie Manz のオフィスで1年間勤務し、コペンハーゲンの Danish Art Workshops に参加しました。そこでクラフトとドローイングをもとにしたスκανジナビアデザインの思想とアプローチを理解しました。
これらの影響は私の作品からお分かりになるかと思います。子どもの頃の記憶とそのストーリー、少し前のコペンハーゲンでの経験や日本での旅の思い出は、いつでも私のアプローチとして表れています。
理想をいえば、スイスの精密さやイノベーションといった特徴と、スκανジナビアのクラフトとドローイングに対する感受性の融合を試みています。

また、私は建築の様なオブジェクトをつくるのが好きです。それは、歴史や場所、意図や素材との対話のなかで息づくもの、という意味です。歴史的に、また文化的に既に証明された価値観から学び、創造することはより論理的だと思うからです。
建築の世界では、特定の場所の歴史的類型学、例えばエンガディーナーハウス（*注2）やログハウス（Strickbau）（*注3）といった建築物は、Rudolf Olgiati から Valerio Olgiati へ、Gion A. Caminada や Peter Zumthor を例に、繰り返し受け継がれ現代の需要と技術に柔軟に適合しています。その様な歴史や伝統、類型学などにもとづく先鋭的なプロダクトのアイデアに惹かれます。



（左） エンディガナーハウス
（右） ドルフ・オルジャティ / House Dr. Schorta, Tamins 1975-1976
（右下） ヴァレリオ・オルジャティ / Atelier Bardill, Scharans



オルジャティ邸 (1770)



（右上） ピーター・ズントー / Wohnhaus Luzi 1997-2002
（左下） ログハウス (Strickbau)
（右下） ピーター・ズントー / Oberhus und Unterhus 2006-2009

—あなたから見た、スイスのデザインの特徴と、その背景を教えてくださいませんか。

スイスデザインは、精密で独創的、とよく提議されます。そのようなディテールだけではなく製造方法や技術的なイノベーションに、より焦点をあてていると思います。

恩師でもあるインダストリアルデザイナー、Jörg Boner は2つのペルナイフを比べスイスデザインを解説しました。1つはスイスのアーミーナイフ。これは精密で独創的、加えて多機能です。もう1つはフランスのオピネルナイフ。ベーシックな機能のみですが、とても表情に富んでいます。スイスデザインは、エリート主義の伝統や社会的影響から生まれた明確な形や素材の文化を持っていないのです。

Hans Coray の Landi Chair (1939) が国際的に広く知られている例でしょう。プレス加工と穴をあけたアルミシートから製作されたそのチェアは、革新的かつ機能的、そして耐久性の高いオブジェクトを最小限の素材（と労力で）生み出しました。

他にも、Max Ernst Haefeli、Le Corbusier、Max Bill、Wilhelm Kienzle、Andreas Christen、Hans Eichenberger…

Zena の Rex Peeler、Utz の Rako box など、たくさんのインハウスの設計士、技術者によるオブジェクトも個人的にはとても重要で、意味のあるデザインです。



(左) オピネルナイフ ©2017 Opinel USA、(右) アーミーナイフ ©2017 Victorinox AG.



ランディチェア ©2016 VITRA INTERNATIONAL AG.

—最後に、今後デザインをしてみたいプロダクトや、今興味を持っている事は何でしょうか。

カトラリーやテーブルウェア、本、家具、家電、そして建築の構造まで、様々なスケールの物に興味があり、手がけてみたいと思っています。





DESIGNER | CARLO CLOPATH



インダストリアルデザイナー。スイスローザンヌのECAL University of Art and Design 卒業。2012年、デンマーク Cecilie Manz のオフィスで勤務。2013年より、コペンハーゲンの Danish Art Workshops へ参加。その後、アルプスのグラウビュンデン州に拠点を置き活動している。作品はデンマークデザインミュージアム、フランス・イエールの Villa Noailles、ミラノ、アイントホーフェン、東京で発表している。2014年、Swiss Federal Design Award、Förderungspreis Graubünden 受賞。

www.carloclopath.com

- 脚注 -

- (※注1) 樺の木、湿原や沼沢地に生育する高木で、現在では家具や内装用材に使用されていることが多い。
- (※注2) エンガディナーハウスはスイス・グラウビュンデン州のエンガディン地方に伝わる農家的一种。典型的なエンガディナーハウスは、スグラフィートと呼ばれる装飾が施された巨大な石の外壁と、深くくぼんでいる窓、住居用と納屋用の2つのドアが特徴である。
- (※注3) strickbau はスイス・グラウビュンデン州の地域の素材である木材を使用している歴史ある建造物で、木の収縮が治るまでに数ヶ月必要だったため時間がかかる建築手法であった。
- 引用 -
- ・スタンダード・スバルタン PD - Victorinox Swiss Army (<https://www.victorinox.com/jp/ja/Products//Medium-Pocket-Knives/-PD/p/1.4603>)
- ・Opinel Carbon Blade No8 Folding Knife | Opinel USA / NeverUnder, LLC (<http://www.opinel-usa.com/products/opinel-no-8-carbon-steel-folding-knife>)
- ・Landi Chair - Vitra (<https://www.vitra.com/ja-jp/product/landi-chair>)
- 出典 -
- ・Plasch Barandun 「Das Museum St. Hippolytus:Feldis」,1999年
- ・Thomas Boga 「Die Architektur von Rudolf Olgiati」,1977年
- ・kunstgewerbemuseum 「Volkskunst aus Graubünden」,1955年
- ・Thomas Durisch 「Peter Zumthor, Bauten und Projekte」,2014年

※当インタビューの文章・画像の無断転載及び複製等の行為は固く禁じます。